

## 学校評価結果の公表について

このたび、平成27年度の学校評価結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

学校評価は、12月に保護者の皆様にもご協力いただき実施いたしました学校評価アンケート等をもとに自己評価を行い、これに対する学校関係者評価をいただいた上で、評価のまとめとしたものです。

### 【参考】 学校評価の流れ

年度の学校教育目標を設定 → 県に報告（5月）



学校評価アンケートの実施（12月）

- ・保護者に対するアンケート
- ・職員に対するアンケート
- ・生徒に対するアンケート



アンケート結果をもとに「自己評価」「改善方策」の案を作成



開かれた学校づくり委員会等で「学校関係者評価」をいただく（2月）



学校評価のまとめ

- 県に報告（2月）
- 学校ホームページに公表（3月）

平成27年度 学校評価 (県立つし特別支援学校)

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	<p>①児童生徒の特性や発達段階に応じた適切な教育課程の編成について問うアンケートの回答で肯定的評価(「良い」と「まあまあ良い」を合わせた割合)は、保護者で93.4%、職員で81.6%であった。一人一人の良さや可能性を大切に授業が行われていると、概ね評価できる。</p> <p>②学校ホームページの内容と更新について問う保護者アンケートの回答で「良い」の割合は24.5%にとどまり(「まあまあ良い」と合わせて57.2%)、「わからない」は36.7%にのぼった。ホームページがあまり見られておらず活用されていない現状がわかった。</p> <p>一方、緊急メールを活用した家庭への情報提供について問う保護者アンケートの回答で「良い」と「まあまあ良い」を合わせた割合は94.5%で評価は高かった。</p> <p>③危機管理マニュアル(危険等発生時対応処置)の平成25年度版を見直し、平成27年度改訂版を定めた。また、防災訓練は年間3回実施しアンケートでは「まあまあ良い」と合わせて82.8%の保護者が、適切な実施であったと回答している。一方、今年度の引き渡し訓練は実施しなかった。</p> <p>④毎月の安全点検は適切に実施された。また今年度は児童生徒の緊急疾病事故対応訓練を、学部や学年ごとに延べ9回実施した。</p> <p>⑤不祥事防止のための職員研修を1学期と2学期、全職員参加で実施した。</p>	<p>①児童生徒の実態に合わせた最適な教育課程の編成をめざし、引き続き研究と検討を深めた。</p> <p>②学校ホームページは、学校概要の年次更新と学校だより以外の更新は、ほとんど更新できておらず、また内容的にも改善が望まれる。情報分掌における重点課題の一つとした。</p> <p>③1学期は矢切特支との併設であったため、引き渡し訓練の適切な実施が困難であるとの判断から実施を見送った。次年度は、必要性和実施時期等の課題をふまえて、実施そのものを含めて検討したい。</p> <p>④緊急対応訓練は極めて実務的な内容で良い意味での危機意識と緊張感をもって実施できた。次年度は、年度の早期での実施を計画したい。</p> <p>⑤目標通り2回実施できた。引き続き同研修を企画・実施して、教員不祥事の発生を防ぎたい。</p>	<p>①児童生徒の特性や発達段階に応じた適切な教育課程の編成については概ね評価できる。一方で、個別の児童生徒への対応についても引き続き取り組んでほしい。</p> <p>②ホームページの内容に子どもたちの様子やタイムリーな話題を載せるなど、情報を集めるツールとして活用できるとよい。また、更新時には更新したことを周知できたい。</p> <p>③防災訓練のうち保護者への引き渡し訓練は、できれば、あったほうがよい(ふだん学校に子どもを迎える機会が少ない保護者もいるため)。</p> <p>④緊急疾病事故対応訓練は、児童生徒のいろいろなパターンでの障害や実態での想定で実施してほしい。</p> <p>⑤不祥事の背景に精神的な問題もあることから、不祥事防止のための職員研修の一方で、教職員のメンタルケアの視点も大切である。</p>	<p>①児童生徒の実態に合わせた最適な教育課程の編成をめざすと同時に、引き続き個別の指導計画に基づいた指導支援の研究と検討を深めたい。</p> <p>②これまであまり更新されず、内容的にも魅力が乏しかったことから、更新システムも含めて学校ホームページの改善を次年度の重点課題の一つとして位置付ける。全面リニューアルに向けて今年度のうちから準備に取り掛かっている。</p> <p>③次年度は、必要性和実施時期等の課題を精査するとともに、保護者の意見もふまえて、実施そのものを含めて検討したい。</p> <p>④緊急対応訓練は極めて実務的な内容で良い意味での危機意識と緊張感をもって実施できた。次年度は、年度の早期での実施を計画したい。</p> <p>⑤本年度に引き続き年間に複数回、不祥事防止研修を実施・実施するとともに、教職員のメンタルケアの視点も重視して、教員不祥事の発生を防ぎたい。</p>
学習指導	<p>①一人一人を大切に授業の実施について問う保護者アンケートの回答で93.4%、また専門的知識をもった学習指導者についての問いでは95.0%が肯定的評価であり、目標として定めた90%を上回った。</p> <p>②生徒(高等部)による授業評価アンケートでは、「学校の授業はわかりやすい」の回答は95.2%で、昨年度の98.2%をやや下回ったが、目標の80%は大きく上回った。</p> <p>③若年層教員(若手研修チーム)の研修のうち授業研究(研究授業と協議会)を延べ27回実施した。</p> <p>④「一人一人の個性を大切に授業のありかたを探る」を全校テーマに研究をすすめ、個別の指導計画を中心としたPDCAサイクルをフローチャートの形でまとめることができた。</p>	<p>①授業の実施に関して、概ね保護者の期待にはこたえられているが、的確なアセスメントに基づいて作成した個別の指導計画を指導実践につなげて活かすという課題は、持ち残っていた。</p> <p>②95.2%は高率であるが、昨年度の98.2%は下回っている。個々の生徒に合わせて、さらに分かりやすい授業を目指すことが課題である。</p> <p>③授業研の協議会を単なる当該授業の内容検討だけに終わらせず、参加者それぞれの授業観を互いに学び合える場にするべく運営工夫した。</p> <p>④1学期間の矢切特支との併設という条件の制限を鑑み、今年度の研究では授業研究は実施しなかったが、テーマと課題から必要性が高ければ次年度では研究分掌主催の授業研究も検討したい。</p>	<p>①専門的知識をもった学習指導については概ね評価できる。一方で、個別の児童生徒への対応についても引き続き取り組んでほしい。</p> <p>②生徒(高等部)による授業評価アンケート結果は高評価であったが、「学校の授業はわかりやすい」の質問は、言葉の意味が分かりにくかったのではない。</p> <p>③授業研究(研究授業と協議会)は校内での実施だけでなく、他校職員の授業研との交流をはかると良い刺激になるのではない。</p>	<p>①授業の実施に関しては、よりの確かなアセスメントに基づいて作成した個別の指導計画を指導実践につなげて活かすという課題は、持ち残っていた。</p> <p>②生徒アンケートの内容と方法を工夫して検討したい。</p> <p>③授業研究(研究授業と協議会)は若年層教員(若手研修チーム)に限らず、ベテラン層の「日常的な」授業から学ぶ授業研(協議会)を研究分掌主催で実施することも検討したい。また授業練習事業の活用も視野に、授業研の他校との相互公開も企画したい。</p> <p>④個別の指導計画を中心としたPDCAサイクルをまとめたフローチャートを本校教員で共有しこれを掲げて、教育研究活動の指針とした。</p>
生徒指導	<p>①個別の生徒の実態に合わせて、可能な生徒に対しては適切に自力通学に向けた指導を行った。</p> <p>②児童生徒に関する相談への誠実な対応について問う保護者アンケートの回答では94.9%がプラス評価であった。しかし、生徒(高等部)によるアンケートでは、「学校の先生は相談してくれる」に「はい」と回答した生徒は87.1%で、昨年の98.2%を下回った。</p> <p>③年間2回実施したい「はじめアンケート」ではいじめも、いじめ認知件数は0件であった。</p>	<p>①自力通学可能判定の手続きより、自力通学に向けた丁寧で粘り強い指導の過程の方に力点を置いて取り組みたい。</p> <p>②生徒アンケートの「学校の先生は相談してくれる」の回答で全員が「はい」になることをめざして日頃の生徒理解を深めていきたい。</p> <p>③目標の「認知件数は0件の維持」は達成できたが、引き続き注意深く児童生徒を見守りたい。</p>	<p>①児童生徒に関して保護者が相談しやすいことは評価できる。一方、生徒(高等部)によるアンケートの「学校の先生は相談してくれるか」の質問は、言葉の意味が分かりにくかったのではない。</p> <p>②いじめ認知件数0件は評価できる。継続してほしい。一方、児童生徒対象の「はじめアンケート」の実施に当たっては、表現や質問方法などの工夫が必要ではない。</p>	<p>①引き続き、自力通学に向けた丁寧で粘り強い指導に取り組む。</p> <p>②生徒アンケートの「学校の先生は相談してくれるか」の回答で全員が「はい」になることをめざして日頃の生徒理解を深めるとともに、生徒アンケートの内容と方法を検討したい。</p> <p>③目標の「認知件数は0件の維持」は達成できたが、引き続き注意深く児童生徒を見守りたい。</p>
キャリア教育	<p>①キャリア教育の視点から面接や説明会等を含めた教育活動は適切に行われているかについて問うアンケートの項目での肯定的回答は、保護者で87.5%、職員で66.4%であり、概ね肯定的といえるが、アンケートの他の項目と比べると相対的に低めの評価となっている。</p> <p>②保護者を対象とした進路説明会は、学部(高等部は学年)ごとに計5回実施された。また個人面談は、期間を設け全校一斉で1回実施したほか適宜実施している。生徒対象の進路面談も、日頃の指導の中で随時実施している。</p>	<p>①職員アンケートの評価が低いことから、キャリア教育に関して確固とした理解を持つ。自信を持って指導できない職員がいることがわかる。1月にはキャリア教育分掌と研究分掌との共同企画である参加型研修会を実施することができたが、今後も積極的にキャリア教育を学ぶ研修を企画していく。</p> <p>②ガイダンス機能充実のための、進路説明会や個人面談は引き続き計画的に実施していく。また保護者に対して、早期からの進路に向けた意識付けをはかっていくことも課題である。</p>	<p>①キャリア教育の視点そのものが、まだ十分に周知されていないのではない。</p> <p>②進路決定の主体は学校ではなく、保護者が主体的に動いていく必要があることを、保護者を対象とした進路説明会や進路に関する進路面談の場で強調すべきではない。</p>	<p>①キャリア教育に関して理解が不十分で、自信を持って指導できない職員が少なからずいることをふまえて、キャリア教育分掌と研究分掌との共同企画など、今後も積極的にキャリア教育を学ぶ研修を企画していく。</p> <p>②ガイダンス機能充実のための、進路説明会や個人面談は引き続き計画的に実施していく。また保護者に対して、早期からの進路に向けた意識付けをはかっていくことも課題である。</p>
道徳教育	<p>①道徳教育は適切に行われているかについて問うアンケートの項目での肯定的回答は、保護者で83.9%、職員で51.2%であり、アンケートの他の項目と比べると低めの評価となっている。</p> <p>②若年層教員の授業研究の中では、指導案作成の段階から道徳教育の要素を意識的に加えるような指導助言をおこなっている。</p>	<p>①保護者アンケートで、この項目についての「わからない」の回答は12.6%にのぼった。道徳教育の指導について、保護者に説明できる機会が必要である。また、職員アンケートで「わからない」が14.2%にもなる。道徳をテーマにした職員研修の機会確保も課題である。</p> <p>②授業の中での道徳教育の要素を日常的にも意識できるように指導助言をはかりたい。</p>	<p>①地域社会も学校も大きく変わってきている。道徳教育に関する保護者の意識も世代によって随分と異なるのではない。</p> <p>②道徳教育に自信のない教員もいるのではない。外部の民間団体が主催して実施している道徳に関する研修会等を紹介するなどして、教員を参加させることもできるのではない。</p>	<p>①個別の児童生徒の実態に応じた、実効力のある道徳教育の指導方策を、引き続き模索したい。</p> <p>②道徳教育に自信のない教員もいるのではない。外部の民間団体が主催して実施している道徳に関する研修会等を紹介するなどして、教員を参加させることもできるのではない。</p>
健康・体育・安全教育	<p>①体育・健康に関する指導や、生涯を通じて運動に親しむための教育活動について問うアンケート項目での肯定的回答は、保護者で93.0%、職員で86.1%であり、概ね高い評価といえる。</p> <p>②通学指導における交通、天候急変等危険回避の指導は、年間を通じて適宜行われた。</p> <p>③給食指導および給食委員会活動は適切に実施されたが、職員アンケートの食育について問う項目での肯定的評価の回答は71.9%であった。</p>	<p>①生涯を通じて運動に親しむ能力を育成するために、引き続き、学校教育活動全体を通じた運動や健康に関する指導を心がける。</p> <p>②引き続き、生徒の安全を第一にした指導を心がける。</p> <p>③食に関する指導の全体計画に基づき、計画的、継続的、組織的な指導に努めていくことについて、分掌から発信するなどの一層の取り組みが求められる。</p>	<p>①毎日、朝の運動で走ったりして身体を動かすことはとてもよい。</p> <p>②学校で食育指導に取り組んでいることに関しては、保護者にもあまり知られていないのではない。</p>	<p>①生涯を通じて運動に親しむ能力を育成するために、引き続き、学校教育活動全体を通じた運動や健康に関する指導を心がける。</p> <p>②通学時危険回避の指導については、引き続き、生徒の安全を第一にして実施する。</p> <p>③食に関する指導の全体計画に基づき、計画的、継続的、組織的な指導に取り組むことにより一層努め、保護者への発信も心がけたい。</p>
地域支援	<p>①地域支援として本校の特別支援教育コーディネーターが他校で実施した支援は、年度初めから1月末まで計22件(保育所1件、小学校21件)であった。</p> <p>②夏季休業中に矢切特支の移転作業が行われたため、例年は他校職員にも開放する職員研修は今年度は実施しなかった。</p> <p>③本校を会場とした連携支援会議(計画)は今年度は実施しなかった。</p> <p>④本年度は例年通り夏季休業中の職員研修を相談協議の7件を含むは、年度初めから1月末まで計26件であった。</p>	<p>①就学相談も含めた「センター的機能」に関する地域からの期待は大きく、学区内の小学校への支援については大いに貢献できたと思われる。一方、中学・高校での具体的な支援の要望がなかったのは残念であった。潜在的な要望は多いと思われるので、次年度は地域の高校等への広げ、課題はあるはずの高校から地域支援の要望がないのは、敷居が高く感じられているせいではないか。待っているだけだけでなく「営業」をかけていくことも必要ではないか。</p> <p>②引き続き、関係機関との連携を深めていく。</p>	<p>①つし先生の持っている専門的ノウハウを小中学校の特別支援学級における指導にもつなげられないだろうか。つしのような特別支援学校と他校様との人事交流もつとめてほしい。</p> <p>②引き続き、関係機関との連携を深めていく。</p>	<p>①就学相談も含めた「センター的機能」に関する地域からの期待に応え、学区内の小学校への支援については大いに貢献できた。一方、潜在的な要望は多いと思われる中学・高校での支援が実現できるように、次年度は地域の高校等へ積極的に広報活動を行いたい。</p> <p>②次年度は例年通り夏季休業中の職員研修を開放して実施することを計画する。</p> <p>③引き続き、連携支援会議の開催を通じて、関係機関との連携を深めていく。</p>
教育環境の整備	<p>①保護者の評価はそれほど低くなかったが、内部評価として、ハード面の整備は数年にわたる懸案の課題であるといえる。引き続き「選択と集中」を旨に、優先順位をつけて、財務当局に要望していきたい。</p> <p>②引き続き、職員による環境美化活動を継続し、定着させたい。</p>	<p>①空き教室をランチルームにしたり保護者控室にしたりと柔軟な環境整備に取り組んでいる学校の努力は評価したい。</p> <p>②PTAの活動でも、環境衛生美化や清掃活動の取り組みを実施している。</p>	<p>①空き教室をランチルームにしたり保護者控室にしたりと柔軟な環境整備に取り組んでいる学校の努力は評価したい。</p> <p>②PTAの活動でも、環境衛生美化や清掃活動の取り組みを実施している。</p>	<p>①数年にわたっての懸案課題であるハード面の整備については、引き続き「選択と集中」を旨に優先順位をつけて、財務当局に要望していきたい。</p> <p>②引き続き、職員による環境美化活動を継続し、定着させたい。</p>